

事を進められることが告げられた。

1. 経緯, 2. 自己紹介, 3. 意見聴取, 4. 文献発表, 5. ASME (高温強度) 翻訳の割り当て, 6. 次回分科会開催。

最近ISOで決めた結果に対し日本側に意見を求めてきた。協会標準化委員会より当高温強度研究委員会に依頼があり、当研究委員会では金材技研および関係会社の意見を基に回答しておいたが、その回答結果がISOより届いた旨の報告があつたこと、本分科会では最近特に重要視されている長時間クリープおよびクリープ破断強度の外挿法に対する最もすぐれた方法を開発すべく共同研究を行いたい、年2〜3回会議を持つて国際的レベルまで上げたいことが了承された。

鉄鋼基礎共同研究会

第6回鉄鋼材料の摩耗部会 開催日：9月12日。出席者：梅田委員，ほか 26 名。

1. 場所：経団連会館 1103 会議室

2. 課題

(1) 従来の研究に関する勉強会として次の発表および討論が行われた。

「ロール製造について」(日立金属・吉原)

「圧延ロールの摩耗に関する諸問題」

(新日鉄・中島，大貫)

(2) 部会の活動方針を次の様に決定した。

(a) 鉄鋼材料等の金属間接触摩耗機構を解明し、金属組織と摩耗の関係を明らかにする。目標として、圧延用ロールをとりあげその摩耗を支配する因子の整理と摩耗機構の解明、ならびに摩耗評価法を確立する。

(b) 研究の進め方は、板圧延についての共同のテーマ研究と、自主研究とで進めることとする。

(c) テーマ研究はロールの損耗と圧延負荷の現状に関する調査をアンケート形式で行い、その後評価方法、試験法をとり上げる。

(d) スラリー摩耗についてもいずれとり上げることとする。

「鉄と鋼」特集号原稿募集案内

テーマ：圧延歩留り向上の技術と理論

原稿締切日 昭和 56 年 3 月 10 日 (火)

昭和 56 年 11 月刊行予定の上記特集号に次のような問題に関する論文・技術報告・寄書の投稿を募集致します。

分塊圧延における圧延歩留りの向上、厚板圧延における平面形状制御と圧延歩留り、熱間帯鋼圧延におけるクロップロスと幅制御など、冷間帯鋼圧延におけるオフゲージ長、トリム代などの問題、形鋼・棒鋼・線材圧延における歩留り、パイプ圧延における寸法計測・寸法制御の技術と圧延歩留り、その他圧延歩留りに関係するもの。

記

1. テーマ 圧延歩留り向上の技術と理論
 2. 原稿締切日 昭和 56 年 3 月 10 日 (火)
 3. 発行 鉄と鋼，第 67 年 13 号 (昭和 56 年 11 月号)
 4. 原稿枚数 表，図，写真を含めて所定の原稿用紙
 - 1) 論文 50 枚以内 (刷上り 10 ページ以内)
 - 2) 技術報告 35 枚以内 (刷上り 7 ページ以内)
 - 3) 原稿は本会寄稿規定に基づいて執筆下さい。
 - 4) 投稿された論文は編集委員会において審査されます。
 5. 問合せ・原稿送付先 〒100 東京都千代田区大手町 1-9-4 経団連会館 3 F
(社)日本鉄鋼協会編集課特集号係 電話 03-279-6021
- (注) 投稿時，原稿表紙に「圧延特集号」と朱書して下さい。